

授業概要

人種や民族を軸にした関係性と文化は不可分のものです。また、文化を巡る普遍と特殊の問題は、日本とアメリカ合衆国の関係を知る意味でも重要なもので、今後の日本社会の在り方を考える上で大切なものです。本講義では、まず「アメリカ」についての地理的・歴史的概念を理解します。その上に立って、民族や共生の問題をテーマに、南北アメリカの問題を考察します。排外主義や民族差別の問題が国際的にもクローズアップされつつある今日、これらのテーマに関する主要概念を学ぶとともに、それらを通じて、アメリカ合衆国やラテン・アメリカ社会を考察することを主眼とします

授業計画

第 1 回	「アメリカ」とは何かーアングロ・アメリカ、イベロ・アメリカ、イスパノ・アメリカ
第 2 回	エスニシティと人種概念について
第 3 回	文明と野蛮について
第 4 回	排外主義と人権の問題ー植民地主義との関係において
第 5 回	奴隷制度と三角貿易ープランテーションと「世界商品」
第 6 回	アメリカ合衆国における民族統合概念
第 7 回	ジム・クロウ制度について
第 8 回	白人至上主義と K.K.K.
第 9 回	映像資料①
第 10 回	「アジア太平洋戦争」と人種戦争
第 11 回	アメリカ合衆国とアジア系アメリカ人
第 12 回	アメリカ合衆国とヒスパニック＝ラティーノ社会
第 13 回	ドナルド・トランプの登場とアメリカ合衆国
第 14 回	映像資料②
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末試験

到達目標

アメリカ合衆国とラテン・アメリカの関係を通して、民族や多文化主義などについて、アメリカ合衆国の現在地点を理解することを主眼とします。固有名詞や年号などを覚えることは第一義的な目的ではなく、社会を生きていく上で必要な人文学的なものの見方を養うことを目標とします。教職を目指す学生にとっては、授業を通して多面的・多角的に文化を考察する資質・能力を育てます。

履修上の注意

本講座の受講に際しては、必ずしも地域文化論Ⅰの受講を要件としません。
履修：積極的に取り組む意思が求められます。出席・遅刻等の扱いは、大学の規定に準じます。
授業：日本語で行います。適宜映像資料も取り入れます。また、本講義は、個人的な政治的見解を披歴する場ではなく、歴史学会の研究成果にもとづいた情報の提示と考察を行う場であることを念頭に受講すること。

予習・復習

クラス内で適宜指示します。授業内における取組も加味します。
大学既定の出席回数を満たさない場合は、期末試験受験資格を喪失します。

評価方法

学期末筆記試験（満点 100 点）

テキスト

毎回の講義時に、主要講義項目を記載したプリントを配布しますが、参考文献として次のものを挙げておきます。

『アメリカ多文化社会論ー多からなるーの現在』（法律文化社）南川文里、2016 年。

『アメリカのヒスパニック＝ラティーノ社会を知るための 55 章』（明石書店）大泉光一・牛島万、2005 年